社会福祉法人そよかぜの機関紙

そよかぜだより

第108号
発行2011.10.16
年4回発行

社会福祉法人そよかぜ
羽村市栄町3-3-1
☎042-578-0855
fax.042-578-0466

福祉作業所ひばり園
新しい取り組みを始めました。

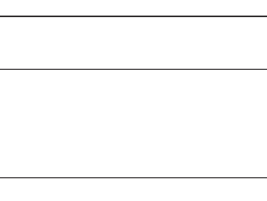
福祉作業所ひばり園では、市内及び近隣の企業様からお仕事をいただき、障害者の福祉的就労サービスを提供しています。この中に、農林業機械の大手メーカーである株式会社やまびこ様（本社：青梅市広町）があり、農林業機械部品の個装（袋詰め）作業を受注しています。やまびこ様とひばり園のお付き合いは平成17年9月に遡り、この当時はやまびこ様の前身である株式会社共立様でした。現在、受注量も右肩上がりで伸び、平成22年度実績で1,230万円となり、ひばり園作業収入の約43%を占めるまでになりました。これもひとえにやまびこ様のあたたかくきめ細かなご支援のおかげと深く感謝しています。

このたび、本年6月からやまびこ様のご厚意により「企業内作業」を始めることになりました。この「企業内作業」は、ひばり園の利用者さんと担当職員、ボランティアスタッフがチームを組み、やまびこ様の事業所（青梅物流センター：青梅市今寺）内の一角をお借りして社員の皆さんと一緒に企業の中で作業をさせていただく取り組みです。これにより、物流センターからひばり園への部品受出し、納品等の手間がはぶけるとともに企業様側のご要望等に迅速に対応できるなど、生産性の向上が図れました。また、"一般企業で働く"体験が日常的にできるとして、利用者さん、担当職員ともに一般就労に必要なことなどを直接学べる大変貴重な場となっています。

写真者から4名、株式会社やまびこご担当者様。

そよかぜニュース

福祉作業所ひばり園
企業内作業を始めました。



開始当初は、利用者さんも職員もとても緊張しながら作業を行っていましたが、今では程よい緊張感で作業を持続することができています。お昼休みには社員の方たちと談笑して楽しく過ごすこともあり、利用者さんはとても楽しそうです。

現在、企業内作業に行く利用者さんは1日3～4人、日替わりで勤務しています。常時職員1名、ボランティアスタッフ1名（週1回）がシフトで配置されています。通勤方法は、小作駅に集合し、職員と共にバスに乗車しています。今後は集合場所を、やまびこ様の社員食堂に変更し、各自で出勤していただく予定になっています。利用者さんのステップアップの機会を与えてくださっているやまびこ様には、心から感謝しています。

ご担当者インタビュー（Q&A）
「今後も協力しながら挑戦していきたい」
――物流管理部 部品品質管理課 ご担当者様

Q：企業内作業を始めるきっかけは？

A：やまびこから部品個装作業を依頼しているが、部品運搬はそよかぜさんが担当している。そよかぜさんの運搬スタッフから、「部品を取りに来たり、個装完了した部品を届けたりしているが、重量のある部品や数量の多いときは積み下ろしが大変。やまびこさんの作業場をお借りすれば、楽になるのにね！」と軽い気持ちで話をしていました。「なんとか挑戦してみましょうか」との話題になったのがきっかけです。やまびことしても部品準備、入庫整理など負担が大きいことから、検討を始めました。

Q：企業内作業の会社側のメリットは？

A：部品準備、入庫整理など受付場所が一部満杯になり、①他部品の置き場が狭くなること、②その作業に人的工数が取られること、③個装方法や部品に問題があるときは、企業内にあるとすぐに対応できること、④個装作業の指導、アドバイスができること、⑤そよかぜさんの作業方法についてすぐに協力できる、などがあります。

Q：始めてから現在までの印象は？

A：上記のメリットであげたとおり、思っていた以上に人的工数、品質的にも効果が出ています。そよかぜさんの作業動作を身近にみて頼もしさを感じています。皆さんも企業内で仕事をされるにあたり、やまびこの社員との交流が少しずつですが、増えてきたように思います。非常に良い環境になったと自信がつきました。

Q：今後、企業内作業に期待することは？

A：そよかぜ、やまびこが一致団結して企業内作業を継続することを望みます。そのためにも工数低減（作業能率をあげる道具の作成、作業改善）を互いに協力しあいながら挑戦していきたいと考えます。迷いや悩みがあれば遠慮なく相談してください。企業内作業ができて非常に助かっています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

グループホームほほえみ館
ボウリング大会と
食事会を実施しました。

8月28日に総勢15名で、3時から全員2ゲームのプレー。ストライクを取って大喜びで、皆からハイタッチで迎えられる利用者さん、溝に転がして悔しがる世話人さんと、日常では見られない表情も見えました。

会場をそよかぜの食堂に移しての食事会は、いつもより少し豪華に見える料理や飲み物を前に、ボウリングの感想や、これからしたいことなど話しました。みんな笑顔でした。

ご近所の山下さんが、レーンの予約やコーチもして下さって、食事会も最後まで参加され皆を楽しませて下さいました。地域の方から声をかけていただけるのは、とても嬉しいです。おうちの方の参加、協力も得られました。次へのモチベーションとなりました。

福祉作業所スマイル工房
はむら夏まつりに出店しました。

7月30日、31日の2日間にわたり、福祉作業所スマイル工房は「はむら夏まつり」に出店参加しました。2日間ともあいにくの空模様の中、ジャンボフランクフルトと発泡酒やラムネなどの飲み物類を販売しました。例年に比べて客足が少なく感じましたが、利用者さんは遠行く人達に、「いらっしゃいませ～」「フランクフルトはいかがですか～」などと一生懸命声をかけて頑張ったせいか、フランクフルトは早めに完売しました。当日は午前中にフランクフルトの仕込み作業や飲み物類の買い物を行い、食材・備品の搬入や開店準備を行った後、午後3時に開店。夜8時30分まで利用者さんは各自決められたシフト表に基づき販売作業を行いました。

スマイル工房は、毎年「はむら夏まつり」に出店を出し、収益は利用者さんの工賃となります。普段は、パン・クッキー作業班と軽作業班に分かれて作業をしていますが、このようなイベントでは作業班の枠を超えて前日準備・食材・備品の買い物や仕込み、当日販売や後片付けまで皆で協力して作業を行います。

【そよかぜコラム】

江戸時代 盲目の大学者 塙保己一（はなわほきいち）
「隠れた才能を発見せよ」と教えます

塙保己一は、盲人ながら、"群書類従"（さしるいじゅう）の刊行という、いままで誰もできなかった事業を成し遂げた大学者として知られています。その学術的な価値や歴史は別にして、ここでは、盲目でこれだけの業績を残した保己一の、生い立ちとエソードにまつわって、障害者福祉にかかわる一面を紹介します。

保己一は現在の埼玉県本庄市で農家に生まれ、「三歳の年まで、肝を病みて七歳の春、にわかに盲目」となりました。12歳には母を病気で失い、一人で生きていかねばならぬと思いました。15歳の時、そうめんの箱に乗って、江戸へ出ました。

江戸で富富別当という検校の盲人に入門します。当時、三味線を習うことが、盲人は必ず技能・琴・三味線を習い、はり・きゅう・按摩をおぼえて暮らさなくてはならぬというきまりがありました。

古来、平家物語を語る琵琶法師は盲目の人々でした。その人々はやがて"当道（とうどう）座"というと団体を作るようになりました。これは彼らの組合座であり互助組織でした。当道座には四つの位階があり、上から検校・別当・こうと・座頭です。江戸時代に入ると当道座は幕府の公認と保護を受け、同時に盲人は必ずどれかの座に入ることが定められます。職分は、琵琶、琴、三味線、針灸、按摩などです。当道座は書記以外はすべて視覚障害者によってなされ、彼らの記憶と計算は確実で、文の代の盲人保護政策であり、江戸時代の障害者福祉です。

雨宮検校（座頭で保己一）は修行をはじめました。ところが保己一は一向に上達しません。三味線を習っても「一夜の稽古に忘れて、明日はしらずなりけり」といわれました。「私は子どもの頃、日本の場所（保己一）先生を手本にしなさいと母からいわれて育ちました。先生の優しい触れることができたことは日本語用における最も有意義なことです。先生の手垢の染みたお本に、頭を傾けて敬虔なお姿とには心から尊敬する念を覚えました。先生のお名前は流れるように伝わることでしょう。」ケラーの話は、その後の身体障害者福祉法の公布などに大きな影響を与えました。

保己一がいてなら、和学講談所の事業は四男の忠宝だけとなり、「文久二年、事実無根の風評によって暗殺されました。その犯人は、なんと若き日の伊藤博文でした。後年、伊藤は明治政府の要職に就きましたが、過ぎし日の自身の行動を反省し、障害者福祉の発展に尽力しました。

何をやってもダメ、ダメ人間の見本だった保己一にも、こんな才能が隠されていました。何かをすることは必ずやる、信じて、能力の発見に努めることが、保己一の頭の中には全く無かったことが、保己一の生涯が教えてくれます。

ある旅本の奥方に栄養物語を音読してもらったとき、保己一は自分の両手を紐で縛りました。「なぜ？」と奥方が聞くと、「蚊が気になると覚えられません。こうしておけば蚊に気になりません」と答えました。社会人集団の中で、「なぜ？」と問うことは、一文字も間違えずに覚えるのだが、丈夫はまったくだめ。あまりにもダメなものだから保己一は傷つきました。かくて師は盲目の人々に「思い詰め、人々はやがて"当道（とうどう）座"であり互助組織でした。当道座には四つの位階があり、上から検校・別当・こうと・座頭です。江戸時代に入ると当道座は幕府の公認と保護を受け、同時に盲人は必ずどれかの座に入ることが定められます。職分は、琵琶、琴、三味線、針灸、按摩などです。当道座は書記以外はすべて視覚障害者によってなされ、彼らの記憶と計算は確実で、文の代の盲人保護政策であり、江戸時代の障害者福祉です。

雨宮検校（座頭で保己一）は修行をはじめました。ところが保己一は一向に上達しません。三味線を習っても「一夜の稽古に忘れて、明日はしらずなりけり」といわれました。「私は子どもの頃、日本の場所（保己一）先生を手本にしなさいと母からいわれて育ちました。先生の優しい触れることができたことは日本語用における最も有意義なことです。先生の手垢の染みたお本に、頭を傾けて敬虔なお姿とには心から尊敬する念を覚えました。先生のお名前は流れるように伝わることでしょう。」ケラーの話は、その後の身体障害者福祉法の公布などに大きな影響を与えました。

保己一がいてなら、和学講談所の事業は四男の忠宝だけとなり、「文久二年、事実無根の風評によって暗殺されました。その犯人は、なんと若き日の伊藤博文でした。後年、伊藤は明治政府の要職に就きましたが、過ぎし日の自身の行動を反省し、障害者福祉の発展に尽力しました。

何をやってもダメ、ダメ人間の見本だった保己一にも、こんな才能が隠されていました。何かをすることは必ずやる、信じて、能力の発見に努めることが、保己一の生涯が教えてくれます。

改正障害者基本法 成立

改正障害者基本法が7月29日、参議院本会議において全会一致で可決・成立し、8月5日に公布・施行（一部を除く）されました。この基本法は、障害者施策や関係法の基本方針となるものであり、これを基に障害者総合福祉法（仮称）、障害者差別禁止法を成立させ、国連の障害者権利条約を批准することを目指しています。改正法では、障害者が日常生活等において受ける制限は、心身の機能の障害のみに起因するものではなく、社会における制度や慣行なども障壁になるとしたうえで、障害の定義も広げました。法の要点としては、「どこで誰と生活するか選択する機会の確保」「手話を言語と認め、意思疎通の手段選択の機会を確保する」「障害のある子ども一人ひとりに教育を受けられるようにする」「身近な場所で医療や介護を受けられるようにする」などと施策の方向性が示されています。ただ、これらの条文には「可能な限り」という文言が付き、7月28日の参院内閣委員会で「やらないことの免罪符になるのでは」との指摘に対し、当時の細野豪志・内閣府担当特命大臣は「最大限努力するという意味だ」と答弁しています。

各事業所からのお知らせ

福祉作業所ひばり園

節電の一環として、お楽しみおやつの日に、ひばり園駐車場でかき氷を作りました。暑い中で食べるかき氷はとても美味しく、皆さんとても喜んでいました。今後は夏の風物詩にしたいと思います。

就労移行支援事業では、"交通機関の利用支援""全緑活動（休日の過ごし方）の支援"を目的とした外出プログラムを8月に実施しました。小作駅から青梅駅まで電車に乗り、青梅駅付近を散策しました。電車の時刻の調べ方や切符の買い方、公共の場での過ごし方、などを実践や体験を通して学ぶことができたようです。

リサイクルショップくれよん

毎年ご好評頂いておりました産業祭ですが、今年度は出展いたしません。平日、お店でお待ちしております。よろしくお願いいたします。

●冬物始めました（コート、セーター、冬小物など など……）。

福祉作業所スマイル工房

スマイル工房ではパン・クッキー作業と軽作業（内職作業）を行っています。利用者さんはどちらかに分かれて作業を行っています。内職作業では7月からゴミ袋梱包作業が加わりました。また、11月頃から新しい種類のクッキーの販売を目指しています。乞うご期待。

●11月6日（日）「こどもフェスティバル」（場所：ゆとろぎ）パン・クッキー販売（予定です）。

障害者就労支援センター エール

「エール」は羽村市より障害者就労支援事業を社会福祉法人そよかぜに委託された事業です。市在住の障害のある方で、就職を希望している方や働いている方などからのご相談をお受けし、ご支援を行っています。

●利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時

宿泊訓練施設つくしの家

グループホーム、施設などに入所する前の「親離れ、子離れ」の訓練をするところです。

グループホームほほえみ館

急募1名（男性に限り）。

資源回収時のご連絡は「ひばり園」へ。

編集後記

猛烈な台風の後、急に涼しくなり、金木犀の香りが街中にただようと、季節はすっかり秋になったのだなと実感しています。そよかぜの各事業所では空調管理や声かけなどし、冬期の節電に向けて、利用者さんの体調管理に気を配っています。読者の皆様もお体ご自愛ください。

各事業所の連絡先

福祉作業所ひばり園　☎042-578-0855
福祉作業所スマイル工房　☎042-578-2723
リサイクルショップくれよん　☎042-578-2575
羽村市障害者就労支援センター エール　☎042-570-1233
羽村市心身障害者宿泊訓練施設つくしの家　☎042-579-6849
グループホームほほえみ館　☎042-578-2875